

第178回～第478回

☆放送局及び期間☆

放送局	期間
近畿放送	昭和47年4月～53年3月

☆司会

放送回	司会者
第178回 ～181回	宇井昇
第182回 ～229回	月原史郎
第230回 ～282回？	宇井昇
第283回？～365回	森一也
第366回 ～368回？	宇井昇
第369回？～413回？	森一也
第414回？～478回	宇井昇

☆放送リスト凡例

- | | |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目 | ④放送概要 |

・年月日は、近畿放送の放送日を記載。

・「①サブタイトル」は、第274回までは木村孝雄自費制作LP同封③に準拠。第275回以降は京都新聞のラジオ欄の記述を元に分かる範囲内で記載。

・「③曲目」は京都新聞のラジオ欄の記述を元にした。そのため、放送されたすべての曲目を網羅しているわけではない。また、放送された音源の歌唱者が明示されている場合のみ、括弧書きで歌唱者名を付した。

・「④放送概要」は京都新聞のラジオ欄の記述を元にした。

昭和47年4月4日

- ①「小野巡」 #178
- ②小野巡

③「祖国の護り」「守備兵ぶし」「円タク行進曲」

④ 今夜は今もなおファンの沢山いる小野巡特集その1を送る。

今年62歳の小野巡がレコード界に入ったのが昭和10年。この年にビクターからデビューした異色の新人として児玉好雄と小野巡があったが、小野巡は前身が警察官、そこから芸名を巡としたが、警察官の時、朝風呂に行ったところで歌手としてスカウトされたのだから異色中の異色と言えよう。

曲目は「祖国の護り」から聞く。

なお、昭和46年4月に近畿放送以外の3局で放送された第128回を放送したものと思われる。

4月11日

- ①「小野巡」 #179
- ②小野巡、福田俊二

③「音信はないか」「西湖の月」「吹雪の進軍歌」「ペダル遊軍歌」

④ 小野巡特集その2。スタジオには小野巡となつメロ愛好会会長の福田俊二を迎えて、小野巡のヒット曲・なつかしい曲の数々を聞く。

なお、昭和46年4月に近畿放送以外の3局で放送された第129回を放送したものと思われる。

4月18日

- ①「船と波止場(再)」 #180
- ②

③「霧の波止場」(上原敏)、「玄海の月」(東海林太郎)、「人生航海」(東海林太郎)、「夜霧の波止場」(霧島昇)、「波止場気質」(上原敏)

④ なつメロにも色々あるが、今夜は海にまつわる曲を集めて送る。

上原敏の「霧の波止場」に始まり、東海林太郎の「玄海の月」「人生航海」と続く。そして霧島昇の「夜霧の波止場」を聞いた後は再び上原敏の「波止場気質」を聞く。

波止場、海、船はそれぞれ人生の浮き沈みに深いかかわりあいを持つが、そうした人生の波をなつメロを通じて味わう。

なお、昭和46年8月3日放送の第143回の再放送と思われる。

4月25日

- ①「船と波止場(再)」 #181
- ②

③「上海航路」(松平晃)、「俺は船乗り」(上原敏)、「月のデッキで」(霧島昇)、「島の船唄」(田端義夫)、「別れ船」(田端義夫)

④ 前週に続いて、人生航海と題して、船・海に関係のあるなつメロを集める。

松平晃の「上海航路」、続いて上原敏の「俺は船乗り」、霧島昇の「月のデッキで」と聞いた後、船ものは十八番中の十八番、田端義夫の船もの二曲を聞く。

まず昭和14年6月発売の彼のデビュー曲「島の船唄」を、そして翌15年6月の「別れ船」を聞く。

なお、昭和46年8月10日放送の第144回の再放送と思われる。

5月2日

- ①「楠木繁夫」 #182
- ②

③「大神戸行進曲」「赤城嵐の子守唄」「白い樺の歌」「可愛いリラ」「緑の地平線」「男のまごころ」「人生劇場」

④ 今夜から月原史郎アナの司会で送る。3週にわたって楠木繁夫特集。

数奇な運命の後に自らの命を絶った楠木繁夫の歌の人生をたどってゆく。テイチク入社前の二、三流レコード会社で歌った「大神戸行進曲」と「赤城嵐の子守唄」は珍品中の珍品ともいえよう。中でも「赤城嵐の子守唄」は東海林太郎の「赤城の子守唄」にそっくりという珍しいレコード。

5月9日

- ①「楠木繁夫」 #183
- ②
- ③
- ④

5月16日

- ①「楠木繁夫」 #184
- ②
- ③「轟沈」「紅燃ゆる地平線」
- ④

5月23日

- ①「岡晴夫」 #185
- ②
- ③「国境の春」「上海の花売り娘」「港シャンソン」「花の広東航路」「東京の花売り娘」
- ④ 今夜から2週にわたって、一昨年(昭和45年)の5月19日に亡くなった岡晴夫の特集を送る。
今夜は昭和14年2月発売のデビュー曲「国境の春」から21年6月に発売された「東京の花売り娘」までの中からヒット曲5曲を送る。またデビュー当時の話や、それぞれのヒット曲の思い出を、生前の声で送る。

5月30日

- ①「岡晴夫」 #186
- ②
- ③「啼くな小鳩よ」
- ④

6月6日

- ①「松平晃」 #187
- ②
- ③「サーカスの唄」
- ④

6月13日

- ①「松平晃」 #188
- ②
- ③「沖のかもめ」「村雨小唄」「夕日は落ちて」「初恋日記」「花言葉の唄」
- ④ 今夜は先週に続いて松平晃特集で昭和10年から11年にかけてのヒット曲を送る。
昭和10年6月に出た「沖のかもめ」は「船頭小唄」のB面に入っている曲。また同じ年8月の「村雨小唄」は、江口夜詩、竹岡信幸の合作になるもの。

6月20日

- ①「松平晃」 #189
- ②
- ③「人妻椿」
- ④

昭和47年

6月27日

- ①「野村俊夫」 #190
- ②
- ③「徳利の別れ」
- ④

7月4日

- ①「野村俊夫」 #191
- ②
- ③「暁に祈る」
- ④

7月11日

- ①「野村俊夫」 #192
- ②
- ③「南の薔薇」「湯の町エレジー」
- ④

7月18日

- ①「映画主題歌集」 #193
- ②
- ③「侍ニッポン」
- ④

7月25日

- ①「映画主題歌集」 #194
- ②
- ③「流転」「人生劇場」
- ④

8月1日

- ①「映画主題歌集」 #195
- ②
- ③「新妻鏡」「赤い睡蓮」
- ④

8月8日

- ①「終戦特集1」 #196
- ②
- ③「軍艦行進曲」「戦友の遺骨を抱いて」「空の神兵」「マニラの街角で」
- ④ 今夜と来週の2回にわたって終戦特集を送る。

第一夜の今夜は、開戦当時の臨時ニュースから始まって、大本営発表を当時の音で聞いた後、戦時中にドイツから潜水艦で運ばれてきた原盤を日本でプレスした「軍艦行進曲」を送る。

そして東条英機の声や、シンガポール総攻撃の実況音などを交えながら「戦友の遺骨を抱いて」「空の神兵」「マニラの街角で」を送る。

8月15日

- ①「終戦特集2」 #197
- ②
- ③「勝利の日まで」
- ④

8月22日

- ①「股旅オンパレード」 #198
- ②
- ③
- ④

8月29日

- ①「股旅オンパレード」 #199
- ②
- ③「折鶴道中」「名月赤城山」
- ④

9月5日

- ①「股旅オンパレード」 #200
- ②
- ③「赤城の子守唄」「黄昏道中」
- ④

9月12日

- ①「モダンソング1」 #201
- ②
- ③「黒い瞳」「小さな喫茶店」
- ④ 木村孝雄自費制作LP同封③には、「タンゴ・シャンソン」と記述されている(第202～203回、208～209回も同様)。外国ポピュラーのなつメロを特集したものと思われる。

9月19日

- ①「モダンソング2」 #202
- ②
- ③「ダイナ」「ジーラ・ジーラ」
- ④ タンゴ・シャンソン

9月26日

- ①「モダンソング3」 #203
- ②
- ③「そよ風」「谷間のともしび」
- ④ タンゴ・シャンソン

昭和47年

10月3日

- ①「日本調特集」 # 204
- ②
- ③「お駒恋姿」「蛇の目のかげで」
- ④

10月10日

- ①「東海林太郎追悼」 # 205
- ②湯川容輔、木村孝雄
- ③「赤城の子守唄」
- ④

10月17日

- ①「東海林太郎追悼」 # 206
- ②湯川容輔、木村孝雄
- ③
- ④

10月24日

- ①「東海林太郎追悼」 # 206
- ②湯川容輔、木村孝雄
- ③「忠治子守唄」「ハルビン旅愁」「さつま隼人の唄」「ある少尉の遺書」
- ④ 今夜は東海林太郎追悼特集その3。ゲストに大の東海林ファンの湯川容輔と、この番組の企画構成をしている木村孝雄を迎え、亡き東海林太郎を偲ぶ。
まず忠治子守唄の思い出を東海林の声で聞いた後「忠治子守唄」を。そして「ハルビン旅愁」「さつま隼人の唄」を。次いで遺作になった「ある少尉の遺書」を聞いて東海林太郎の冥福を祈りながら番組を終わる。

10月31日

- ①「モダンソング4」 # 208
- ②
- ③「モンパパ」
- ④ タンゴ・シャンソン

11月7日

- ①「モダンソング5」 # 209
- ②
- ③「さらば草原よ」
- ④ タンゴ・シャンソン

11月14日

- ①「リクエスト1」 # 210
- ②
- ③
- ④

11月21日

- ①「リクエスト2」 # 211
- ②
- ③
- ④

11月28日

- ①「リクエスト3」 # 212
- ②
- ③
- ④

12月5日

- ①「なつかしのホームソング」 # 213
- ②
- ③
- ④ 木村孝雄自費制作LP同封③には、「国民歌謡など」と記述されている(第214回も同様)。
なお、当日の朝日新聞大阪版及び京都新聞には「リクエスト特集」と書いてある。

12月12日

- ①「なつかしのホームソング」 # 214
- ②
- ③
- ④ 国民歌謡など。

12月19日

- ①「ビクター戦前篇」 # 215
- ②
- ③
- ④ 当日の京都新聞には「”昭和の歌全集”から」とのみ記述されている。おそらく、ビクターから新発売されたLPから戦前のなつメロを特集する回であったものと思われる。

12月26日

- ①「ビクター戦前篇」 # 216
- ②
- ③
- ④

昭和48年1月2日

- ①「新春オールスターパレード」 # 217
- ②
- ③「人生劇場」「船頭可愛いや」
- ④

昭和48年

1月9日

①「新春オールスターパレード」 #218

②

③「人生劇場」 「船頭可愛いや」

④

1月16日

①「新春オールスターパレード」 #219

②

③

④

1月23日

①「リクエスト」 #220

②

③

④

1月30日

①「上原敏名作集」 #221

②

③

④

2月6日

①「上原敏名作集」 #222

②

③

④

2月13日

①「戦時歌謡集1」 #223

②

③

④

2月20日

①「戦時歌謡集2」 #224

②

③

④

2月27日

- ①「戦時歌謡集3」 #225
- ②
- ③
- ④

3月6日

- ①「リクエスト」 #226
- ②
- ③
- ④

3月13日

- ①「リクエスト」 #227
- ②
- ③
- ④

3月20日

- ①「リクエスト」 #228
- ②
- ③
- ④

3月27日

- ①「テイチク戦前篇」 #229
- ②
- ③
- ④

4月3日

- ①「上原敏1」 #230
- ②青葉笙子、妻城光男
- ③「霧の波止場」(上原敏)、「俺は船乗り」「波止場気質」「二人の大地」
- ④ 今夜は上原敏特集。ゲストに戦前・戦中に上原敏と寝食を共にし、前線慰問に参加した元ポリドール文芸部員妻城光男と歌手の青葉笙子を迎え、上原敏の横顔を語る。
波のように上体をゆらしながら歌った「霧の波止場」、8回目にやっとOKの出た「俺は船乗り」の吹き込み、そしてとかく噂のあった青葉笙子との関係など話は弾む。
なお今夜から司会は宇井昇アナウンサーで送る。

4月10日

- ①「上原敏2」 #231
- ②青葉笙子、妻城光男
- ③「妻恋道中」「鴛鴦道中」「流転」「親恋道中」
- ④ 今夜は上原敏の三本柱であるマドロスもの、股旅もの、たよりものうち、股旅ものを送る。
発売1か月で40万枚も売れたという「妻恋道中」「鴛鴦道中」のおしどりコンビ青葉笙子は上原との仲を誤解されて困った話。作曲者阿部武雄の横顔、上原敏の人気の根源などを浮き彫りにする。

昭和48年

4月17日

①「上原敏3」 #232

②妻城光男

③「上海だより」「南京だより」「愛馬の歌」「仏印だより」「声なき凱旋」

④ 今夜は先週、先々週に続いて「上原敏特集」の3回目。ゲストに妻城光男を迎え、上原敏のあれこれを聞く。まず大ヒットした「上海だより」を聞いた後、野球好きな上原敏の野球と歌の関連性、そしてこの曲のヒットした理由などを話す。続けて「南京だより」「愛馬の歌」「仏印だより」と上原敏の三本柱の1つである「たよりのもの」を集めて聞く。そして最後に「声なき凱旋」を聞く。

4月24日

①「豆千代」 #233

②豆千代

③

④

5月1日

①「豆千代」 #234

②豆千代

③「夜霧朝霧」「島田くづし」「二人の恋」「喫茶店哀話」「浮名三味線」

④ 豆千代特集の2回目。女性としての魅力いっぱいの豆千代をゲストに招いて、舞台での色気のコツを聞く。唄い出す時の口元をちょっとひきしめるしぐさや、舞台に出てくる時のつまをとるようなしぐさが、ファンの人気を集めた話。聴取者プレゼントとして、豆千代のサイン入り色紙を贈るので希望者は近畿放送「この歌あの人」の係まで。

5月8日

①「豆千代」 #235

②豆千代

③

④

5月15日

①「霧島昇」 #236

②霧島昇

③「赤城しぐれ」「涙の三人旅」「夜霧の波止場」「旅の夜風」

④ 昭和12年「赤城しぐれ」のヒットで歌謡界入りして以来36年、終始コロムビアの至宝として活躍してきた霧島昇をスタジオに招き、今夜から3週にわたって放送する。

今夜の曲目は、和製クロスビー出現と騒がれた「赤城しぐれ」、日華事変勃発でうずもれてしまった名曲「涙の三人旅」、加藤勉の吹き込み予定が変更され、あわてて吹き込んだマドロス歌謡の名作「夜霧の波止場」、そして霧島昇を不動のものにした映画「愛染かつら」の主題歌「旅の夜風」等を送る。

5月22日

- ①「霧島昇」 #237
- ②霧島昇
- ③「月のデッキで」「愛染夜曲」「純情二重奏」「愛染草子」
- ④ 先週に続いて霧島昇特集。

霧島メロディーとしては少し変わった作品「月のデッキで」。松平晃で吹き込むということを聞いて満州慰問から飛んで帰ってきて吹き込んだという「愛染夜曲」。続いて大ヒットした映画主題歌「純情二重奏」。そして霧島昇の名を不動のものにした「愛染かつら三部作」の最後のヒット曲「愛染草子」を、それぞれにまつわるエピソードを聞きながら送る。

5月29日

- ①「霧島昇」 #238
- ②霧島昇
- ③「誰か故郷を想わざる」「新妻鏡」「目ん無い千鳥」「愛呼ぶ歌」「明日の運命」
- ④ 今夜は先週、先々週に続いて霧島昇特集の第3夜。

これを歌わないとステージの幕が降ろせないという「誰か故郷を想わざる」。昭和15年に封切られた東宝映画「新妻鏡」の主題歌「新妻鏡」とその裏面の「目ん無い千鳥」。デュエットで歌って菊池章子がスターになるきっかけを作った「愛呼ぶ歌」。そして3週にわたった霧島昇特集の最後に「明日の運命」を聞く。

6月5日

- ①「倉若晴生」 #239
- ②倉若晴生
- ③「生徒の祈り」「夢のゆりかご」「想い出峠」「波に想いを」「俺は船乗り」
- ④ 今夜から4週にわたって作曲家・倉若晴生特集を送る。

今夜は作曲家になった頃の話から始め、第2作目の「生徒の祈り」を聞く。
そして昭和14年1月ポリドールから発売された「夢のゆりかご」。これは作曲はもちろんだが、編曲も自らやった曲で、倉若晴生編曲として世に出た第一号である。歌は北廉太郎。その後、「想い出峠」「波に想いを」「俺は船乗り」を聞く。

6月12日

- ①「倉若晴生」 #240
- ②倉若晴生
- ③「島の船唄」
- ④

6月19日

- ①「倉若晴生」 #241
- ②倉若晴生
- ③「別れ船」「夕日ははるか」「大島椿」「梅と兵隊」「見たか鉄腕」
- ④ 先週、先々週に続いて今夜は倉若晴生特集の3回目。

まず船シリーズの第一作として昭和15年6月に発売された「別れ船」を聞く。そして同じ田端義夫が歌った「夕日ははるか」に続いて、青葉笙子の思い出を語った後「大島椿」、そして「梅と兵隊」「見たか鉄腕」を聞く。

6月26日

- ①「倉若晴生」 #242
- ②倉若晴生
- ③「母と兵隊」「潜水艦日記」「かえり船」「かよい船」、「江の島エレジー」(菅原都々子)
- ④ 作曲家・倉若晴生特集の4回目。

今夜の最初の曲は、昭和16年8月にポリドールから発売された「母と兵隊」。その後昭和18年3月に発売された「潜水艦日記」。これは上原敏の後期のレコードとして貴重なもの。そして終戦後、船もの第2弾として作った「かえり船」の作曲のいきさつなどを聞く。「かえり船」「かよい船」のあと、最後に菅原都々子の「江の島エレジー」を聞く。

7月3日

- ①「淡谷のり子」 #243
- ②淡谷のり子
- ③「薄い縁」「十月の唄」「思い出のカプリ」「巴里祭」「別れのブルース」
- ④ 淡谷のり子特集その1。

今夜から、ブルースの女王と言われ昭和歌謡史を彩る歌謡生活43年の淡谷のり子をゲストに招き、懐かしいタンゴ、シャンソンなどを3週にわたって送る。

昭和5年ポリドールで「夜の東京」を初吹込みしてから暗中模索の時期が数年続いたが、その頃の歌に淡谷のり子の三弦歌謡「薄い縁」がある。三味線入りの歌を淡谷が歌うなど、今思えば考えられないことだ。

今夜は「薄い縁」、「コロラドの月」でよく知られている「十月の唄」、コンチネンタルタンゴの「思い出のカプリ」、シャンソンの「巴里祭」、流行歌が大嫌いだと嫌々ながら吹き込んだ大ヒット曲「別れのブルース」などを送る。

7月10日

- ①「淡谷のり子」 #244
- ②淡谷のり子
- ③「ジプシーのなげき」「さよならもいわずに」「人の気も知らないで」「雨のブルース」「ブエノスアイレスの歌」
- ④ 先週に続いて淡谷のり子特集の第2夜。

昭和13年から「淡谷のり子とその楽団」という楽団を持っていたという話から一曲目は「ジプシーの嘆き」を聞いた後、色々な楽団の思い出話を聞く。そして昭和13年1月にコロムビアから発売された「さよならもいわずに」を聞いてタンゴの魅力、タンゴについて語る。

7月17日

- ①「淡谷のり子」 #245
- ②淡谷のり子
- ③
- ④

7月24日

- ①「大久保徳次郎」 #246
- ②大久保徳次郎
- ③
- ④

7月31日

- ①「大久保徳次郎」 #247
- ②大久保徳次郎
- ③「ダンディ気質」(田端義夫)、「春の舞妓」(菊池章子)、「舞妓物語」(田端義夫)、「親子船頭」(田端義夫・白鳥みづえ)、「雨の夜の喫茶店」(松平直樹とブルーロマン)
- ④ 今夜は先週に続いて作曲家の大久保徳次郎をゲストに、彼の作曲した名曲の数々を聞く。
まず映画音楽と映画主題歌を作る時の違いを話した後、田端義夫が歌う「ダンディ気質」を送る。そして映画俳優が歌を歌うきっかけなど映画にまつわる話や今後の大久保徳次郎の抱負などを聞く。
曲は「ダンディ気質」、菊池章子の「春の舞妓」、そのA面で田端義夫の「舞妓物語」、田端義夫と白鳥みづえの「親子船頭」、そして新しく吹き込んだ「雨の夜の喫茶店」を松平直樹とブルーロマンで送る。

8月7日

- ①「楠木繁夫」 #248
- ②吉田信
- ③「緑の地平線」「国境を越えて」「白い樺の唄」「ハイキングの唄」「男のまごころ」
- ④ 今夜から3週にわたって、今は亡き情熱の歌い手・楠木繁夫を送る。
まず楠木繁夫のステージでの自分が歌う歌の紹介の言葉から「緑の地平線」を聞く。
次いで今夜のゲスト・日本音楽著作権協会の吉田信から、楠木繁夫のデビュー当時のエピソードについて色々聞く。

8月14日

- ①「楠木繁夫」 #249
- ②吉田信
- ③「緑の地平線」「啄木の歌」「慈悲心鳥」「女の階級」
- ④ 先週に続いて、今は亡き楠木繁夫特集の第2夜。
今夜の一曲目は楠木繁夫の最大のヒット曲「緑の地平線」。当時ステージでは自分でアコーディオンを弾きながらこの曲を歌い、舞台を盛り上げていた。二曲目は文芸作品「啄木の歌」を聞く。
そしてそれぞれの曲にまつわるエピソード、楠木繁夫の思い出を日本音楽著作権協会の吉田信が語る。

8月21日

- ①「楠木繁夫」 #250
- ②吉田信
- ③
- ④

8月28日

- ①「レイモンド服部追悼」 #251
- ②
- ③「忠治子守唄」「可愛いワラ」「嘆きのピエロ」「戦場の子守唄」「忠治子守唄」
- ④ 今夜から3回にわたって、去る8月5日に亡くなった服部逸郎ことレイモンド服部特集を送る。
今夜はその第1夜として、昭和46年1月に放送したものを再放送という形で放送する。
曲目は「忠治子守唄」に始まり、「可愛いワラ」「嘆きのピエロ」「戦場の子守唄」、そしてもう一度「忠治子守唄」を聞く。
それぞれの曲の思い出とともに、生前のレイモンド服部の声を偲ぶ。

昭和48年

9月4日

①「レイモンド服部追悼」 # 252

②

③「小諸追分」(東海林太郎)、「親恋道中」「アデュー・モンパリ」「ハルビン旅愁」

④ 先週に続いて、去る8月5日に亡くなった服部逸郎ことレイモンド服部特集の再放送。

まず昭和13年10月に発売された東海林太郎が歌った「小諸追分」を聞く。そして東海林太郎の歌を作る時と、もう一人のスター上原敏が歌う曲を作る時の違いを話した後、昭和14年3月に発売された「親恋道中」を聞く。

9月11日

①「レイモンド服部追悼」 # 253

②

③「コバルトの空」、「ゴメンナサイ」(ハリー・ベラフォンテ)、「ヤットン節」「タマラン節」「ワゴン・マスター」
「バラのようなお嬢さん」

④ 先週先々週に続いて、去る8月5日に亡くなった服部逸郎ことレイモンド服部特集の第3夜を送る。

まず「コバルトの空」の軽快なマーチで幕を開ける。そして今夜は戦後のヒット曲を聞くが、まず変わったところで、ハリー・ベラフォンテが歌う「ゴメンナサイ」、そして「ヤットン節」「タマラン節」と日本調の曲を聞いた後、昭和30年に発売された「ワゴン・マスター」を聞いてお別れに「バラのようなお嬢さん」を聞く。

9月18日

①「門田ゆたか」 # 254

②門田ゆたか

③「東京の花売り娘」

④

9月25日

①「門田ゆたか」 # 255

②門田ゆたか

③「東京ラブソディ」「東京の花売り娘」「わたしのボーイ・フレンド」「街に灯がつけば」「ニコライの鐘」

④ 先週に続いて門田ゆたか特集その2を送る。

オープニングは藤山一郎が颯爽と歌う「東京ラブソディ」。その後終戦直後の昭和22年に発売され大ヒットとなった「東京の花売り娘」を聞く。そして昭和25年に当時わずか13歳だった美空ひばりが歌いヒットした「わたしのボーイ・フレンド」を聞いて「街に灯がつけば」「ニコライの鐘」を送る。

10月2日

①「山田栄一」 # 256

②山田栄一

③

④

10月9日

①「山田栄一」 #257

②山田栄一

③「すみだ川」(東海林太郎)、「春琴抄」(高田浩吉・田中絹代)、「昔の空」(東海林太郎)、「南京だより」(上原敏)、「上海の街角で」(東海林太郎)

④ 先週に続いて今夜も作曲家の山田栄一特集その2夜を送る。

一曲目は東海林太郎が歌う「すみだ川」。発売当時には15、6万枚も売れたという大ヒット曲に続いては、高田浩吉・田中絹代のセリフ入り「春琴抄」。そして昭和12年10月にポリドールから発売された「昔の空」。歌は東海林太郎。その後上原敏の「南京だより」、東海林太郎の「上海の街角で」を東海林の思い出を語りながら綴る。

10月16日

①「山田栄一」 #258

②山田栄一

③「北京だより」(上原敏)、「人妻真珠」(東海林太郎)、「愛馬の唄」(上原敏)、「純情月夜」(結城道子)、「シンガポール便り」(田端義夫)

④ 先週、先々週に続いて作曲家の山田栄一特集その3夜。

いわゆる山田節と言われる作曲の秘訣を聞いた後、今夜の最初の曲、上原敏の「北京だより」を聞く。そして昭和13年にポリドールから発売された「人妻真珠」を東海林太郎で聞くが、これは最新の録音技術を使って原盤から再録音したもの。その後、上原敏の「愛馬の唄」、結城道子の「純情月夜」、そして田端義夫の「シンガポール便り」を聞く。

10月23日

①「渡辺はま子」 #259

②渡辺はま子

③

④

10月30日

①「渡辺はま子」 #260

②渡辺はま子

③「長崎のお蝶さん」「いとしまの星」「忘れな草」「蘇州夜曲」「何日君再来」

④ 先週に続いて「渡辺はま子特集その2夜」を送る。

一曲目は昭和14年8月に発売された「長崎のお蝶さん」。これは日本の長崎ものの第一号である。またマダム・バタフライを3分20秒に縮めた作品としてその雰囲気がよく盛り込まれている。その後「いとしまの星」「忘れな草」を聞いて、霧島昇とデュエットで歌う「蘇州夜曲」を聞いて、当時慰問で巡った中国の話をする。最後は「何日君再来」。

11月6日

①「渡辺はま子」 #261

②渡辺はま子

③「雨のオランダ坂」

④

11月13日

- ①「上原敏」 #262
- ②上原未亡人、島田馨也
- ③「妻恋道中」「流転」「裏町人生」「波止場気質」
- ④ 放送開始から今夜で262週。満5年になる。今夜から2週にわたって、記念すべき「この歌あの人」の第1回録音「上原敏特集」を再放送する。

出演は「裏町人生」や「波止場気質」など一連の人生ものでヒットを飛ばした詩人の島田馨也と、上原敏の未亡人澄子を招き、過ぎし日の上原敏を偲びつつ対談する。

曲目は、一世を風靡した「妻恋道中」や「流転」などの道中もの。「裏町人生」や「波止場気質」などのヒット曲。

11月20日

- ①「上原敏」 #263
- ②上原未亡人、島田馨也
- ③「上海だより」「従軍記者」
- ④ 先週に続いて放送開始満5周年を記念して、昭和43年11月に放送した「上原敏特集その2」を再放送で送る。

スタジオには先週と同じく詩人の島田馨也と、上原敏の未亡人の松本澄子を迎えて、上原敏にまつわる話や、ヒット曲にまつわる裏話を聞く。

曲目は、いわゆる便りものの中から「上海だより」の他「従軍記者」など、そして島田が上原を偲んで詩を吟ずる。

11月27日

- ①「サトウハチロー追悼」 #264
- ②
- ③
- ④

12月4日

- ①「サトウハチロー追悼」 #265
- ②
- ③「目ン無い千鳥」「小雨の丘」「めんこい仔馬」「リンゴの唄」「夢淡き東京」
- ④ 去る11月13日に亡くなったサトウハチローを偲んで、昭和45年にこの番組に出演した時のテープを再放送で送る。

先週に続いての第2夜だが、今夜は「目ン無い千鳥」で番組がスタートする。サトウハチローといえば、スポーツマンとしても活躍したが、彼の作品に雨の歌が多いのも、雨の日は野球ができないからというような裏話がユーモラスな口調で色々紹介される。

12月11日

- ①「青葉箏子」 #266
- ②青葉箏子
- ③「島のあけくれ」「坊やは達者」「関の追分」「鴛鴦道中」
- ④ 今夜から3回にわたって、戦前の人気歌手・青葉箏子特集を送る。

昭和12年、読売新聞主催ののど自慢に17歳の少女が応募し、当時流行していた「下田夜曲」を歌って見事優勝した。この少女が青葉箏子で、その後コロナレコードに入社。更に親会社のポリドールに移籍、昭和13年に上原敏とコロムビアで歌った「鴛鴦道中」で一躍スターダムにのし上がった。

12月18日

- ①「青葉笙子」 #267
- ②青葉笙子
- ③
- ④

12月25日

- ①「青葉笙子」 #268
- ②青葉笙子
- ③「大島椿」
- ④

昭和49年1月1日

- ①「新春なつメロ大行進」 #269
- ②
- ③「旅のつばくろ」
- ④

1月8日

- ①「新春なつメロ大行進」 #270
- ②
- ③「男の純情」(藤山一郎)、「黒いパイプ」(由利あけみ)、「女の階級」(楠木繁夫)、「アイルランドの娘」(ディック・ミネ)、「青い背広」(小泉幸男)、「麦と兵隊」(青葉笙子)
- ④ 先週に続いて「新春なつメロ大行進」。

まず幕開けは昭和14年に発売された「歌の慰問袋」から静田金波の名調子の解説を入れたレコード。この中には藤山一郎の「男の純情」、由利あけみの「黒いパイプ」、楠木繁夫の「女の階級」がそれぞれ一コーラスずつ入っている。

今夜はその他なつメロ17曲を送る。

1月15日

- ①「新春なつメロ大行進」 #271
- ②
- ③「時雨ひととき」、「しぐれ旅」(染千代)、「旅姿三人男」(ディック・ミネ)、「大陸の町」(東海林太郎)
- ④ 新春名曲大行進の第3夜。

ポリドールから昭和12年に発売された「名曲玉手箱」から東海林太郎、メ香、上原敏の歌声を聞く。続いてその裏面からは高田浩吉、日本橋きみ栄、結城道子の歌声を送る。そして珍曲中の珍曲、染千代の「しぐれ旅」を聞いた後、聴取者からのリクエスト曲を送る。

1月22日

- ①「リクエスト特集」 #272
- ②
- ③「買物ブギ」
- ④

1月29日

①「リクエスト特集」 #273

②

③「明日はお立ちか」(小唄勝太郎)、「上海航路」(林伊佐緒・三浦房子)、「浜町ざんげ」(喜代丸)、「渡世がるた」(上原敏)、「幌馬車の唄」(和田春子)、「新雪」(桜井潔とその楽団)、「ラ・クンパルシータ」(柴田睦陸)

④ 第273夜の今夜は、先週に続いて、聴取者からのリクエスト曲を送る。

一曲目は勝太郎の「明日はお立ちか」。そして昭和11年に発売された、林伊佐緒と三浦房子が歌う「上海航路」。三曲目は、喜代丸の「浜町ざんげ」。続いて上原敏が「流転」と同じ頃に出した「渡世がるた」、リーガル盤で発売された和田春子の「幌馬車の唄」。そしてちょっと毛色が変わるが、桜井潔とその楽団の演奏で「新雪」、お別れは柴田睦陸の「ラ・クンパルシータ」。

2月5日

①「リクエスト特集」 #274

②

③「人生劇場」(楠木繁夫)、「夜が笑っている」(織井茂子)、「古き花園」(二葉あき子)、「さくら音頭」(岡晴夫・三門純子)、「雨の日曜日」(結城道子)、「霧の四馬路」(美ち奴)、「崑崙越えて」(藤山一郎)

④ 先週、先々週に続いてリクエスト特集の第3夜。

一曲目は京都の方からのリクエストで楠木繁夫の「人生劇場」。二曲目はぐっと新しく昭和33年7月に発売された織井茂子の「夜が笑っている」。続いて松竹映画「春雷」の主題歌「古き花園」を二葉あき子の歌で聞く。後半に入って四曲目は、戦後に岡晴夫が吹き込んだ「さくら音頭」を三門純子とのデュエットで。そして結城道子の「雨の日曜日」。美ち奴の「霧の四馬路」。最後に藤山一郎の「崑崙越えて」を聞く。

2月12日

① #275

②

③

④

2月19日

① #276

②

③「高原の旅愁」「雪の戦線」

④

2月26日

① #277

②

③

④

3月5日

① #278

②

③「吉良の仁吉」

④

3月12日

- ① # 279
- ②
- ③
- ④

3月19日

- ① # 280
- ②
- ③
- ④

3月26日

- ① # 281
- ②
- ③
- ④

4月2日

- ①「流離」 # 282

②

③「峠しぐれ」「涙の親子旅」「木曾の流れ唄」「妻恋旅姿」「流離」「街の波止場」「国境線万里」

④ 今夜は先週に続いて、番組の企画・構成者の木村孝雄が今度自費出版する「受難の世代に捧ぐる—ああいとおしの青春歌」のLPから送る。

今夜はB面上原敏の曲を聞くが、一曲目は「峠しぐれ」。二曲目は「涙の親子旅」、そして「木曾の流れ唄」。四曲目が「妻恋旅姿」と珍品が続く。その後「流離」「街の波止場」、最後に「国境線万里」を聞く。

なおこのLPは5月末に完成の予定で、希望者は近畿放送の「この歌あの人」の係まで。

4月9日

- ① # 283
- ②
- ③
- ④

4月16日

- ① # 284
- ②
- ③
- ④

4月23日

- ①「藤山一郎特集戦後編」 # 285

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

4月30日

①「藤山一郎特集戦後編」 # 286

②

③「長崎の鐘」「青い山脈」「ニコライの鐘」「花の素顔」「丘は花ざかり」

④ 今夜は先週に続いて藤山一郎特集戦後編その2を送る。

「長崎の鐘」そして「青い山脈」を聞いた後、藤山一郎へのインタビュー。

次いで昭和26年4月に発売された「ニコライの鐘」、スローワルツの「花の素顔」を聞いて、昭和27年に封切られた映画主題歌「丘は花ざかり」を最後に聞く。

5月7日

①「二葉あき子特集」 # 287

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

5月14日

①「二葉あき子特集」 # 288

②

③「夜のプラットホーム」「フランチェスカの鐘」「恋の曼珠沙華」

④ 今夜は先週に続いて二葉あき子特集その2。

今夜は戦後のヒット曲の数々を聞くが、最初は昭和22年に発売された「夜のプラットホーム」。この曲は、戦争中に「アイ・ウィル・ビーウェイティング」という英語のタイトルをつけて検閲をごまかして発売されたものを戦後二葉あき子が日本で歌ってヒットしたもの。

5月21日

①「小畑実特集」 # 289

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

5月28日

①「小畑実特集」 # 290

②

③「長崎のザボン売り」「小判鮫の唄」「薔薇を召しませ」「星影の小径」「涙のチャング」「高原の駅よさようなら」「山の端に月が出る頃」

④ 先週に続いて小畑実特集その2で、戦後のヒット曲の数々を送る。

まず昭和23年にキングから発売されたヒット曲2曲、「長崎のザボン売り」と「小判鮫の唄」を聞く。そして小畑実の後援会「白バラ会」の名前の由来ともいえる「薔薇を召しませ」を聞いた後、昭和25年のヒット曲「星影の小径」と続く。

その後コロムビアに移籍。昭和25年10月に「涙のチャング」を出す。

そして古巣のビクターに帰って昭和26年6月に大ヒットの「高原の駅よさようなら」を出す。

こうした一連のヒット曲の締めくくりは「山の端に月が出る頃」。

6月4日

①コミック・ソング # 291

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

6月11日

①コミック・ソング #292

②

③「歌う弥次喜多」(古川ロッパ・徳山璉)、「タバコ屋の娘」(岸井明・平井英子)、「玄治店」(藤山一郎・小林千代子)、「袖珍ラジオ版」「吾輩は馬である」「僕は特急の機関手で」「田舎のバス」

④ 今夜は先週に続いて「コミック・ソング」特集その2。

昭和10年日劇のアトラクションで大ヒットした日本製ミュージカル「歌う弥次喜多」は、古川ロッパの弥次さん、徳山璉の喜多さんで吹き込まれた。二曲目は岸井明と平井英子で「タバコ屋の娘」。そして藤山一郎の与三郎、小林千代子のお富で「玄治店」。

続いて珍品中の珍品「袖珍ラジオ版」、これはラジオの番組を色々綴ったもの。その後「吾輩は馬である」「僕は特急の機関手で」「田舎のバス」を送る。

6月18日

①リクエスト特集 #293

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

6月25日

①リクエスト特集 #294

②

③「愛国の花」(渡辺はま子)、「街道投げぶし」(田端義夫)、「幌馬車の唄」(和田春子)、「くろがねの力」(霧島昇・伊藤久男・二葉あき子・松原操)、「あなたのあかし」(松平晃・杉狂児・市川春代)、「喫茶店哀話」(豆千代)、「潜水艦の台所」(古川ロッパ)

④ 先週に続いてリクエスト特集その2。

一曲目は渡辺はま子の「愛国の花」。続いてまだLP化されていない田端義夫の「街道投げぶし」。三曲目は昭和8年に発売された和田春子の「幌馬車の唄」。そして霧島、伊藤、二葉、松原の4人で「くろがねの力」。

続いて松平、杉、市川の3人で日活作品「花嫁日記」から「あなたのあかし」。そして豆千代の唄で「喫茶店哀話」。最後は古川ロッパの「潜水艦の台所」を送る。

7月2日

①勝太郎特集① #295

②

③

④ 京都新聞のラジオ欄に何も記述がないが、去る6月21日に亡くなった小唄勝太郎の追悼特集と思われる。

7月9日

①勝太郎特集② #296

②

③

④

7月16日

①夏のなつメロ特集 #297

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

7月23日

①夏のなつメロ特集 #298

②

③「朝月夕月」(ミス・コロムビア)、「夜霧の馬車」(李香蘭)、「月夜船」(波平暁男)、「とんがり帽子」「港の恋唄」
「ベサメムーチョ」「チャルメラそば屋」

④ 今夜は先週に続いて「夏のなつメロ特集」その2を送る。

一曲目は昭和13年5月に発売された「続愛染かつら」の挿入歌でミス・コロムビアの「朝月夕月」。二曲目は昭和16年の夏ごろに流行した李香蘭の「夜霧の馬車」。そして終戦1年前の昭和19年夏に流行った波平暁男の「月夜船」を送る。

戦後まだ焼け跡があちこちに残る街に流れたのがラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌「とんがり帽子」。この曲にはさまざまな思い出をよみがえらせる人も多いことだろう。

7月30日

① #299

②

③

④

8月6日

① #300

②

③

④

8月13日

① #301

②

③

④

8月20日

①レコード歌手しのぶ草 #302

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月27日

①レコード歌手しのぶ草 #303

②

③「塹壕の中で」(徳山璉)、「峠しぐれ」(上原敏)、「すその三里」(染千代)、「人妻椿」(松平晃)、
「港シャンソン」(岡晴夫)、「人生劇場」(楠木繁夫)、「東京音頭」(勝太郎・三島一声)

④ 先週に続いて「レコード歌手しのぶ草」と題して、今は亡き歌手達を偲んでヒット曲を集めて送る。

一曲目は38歳の若さでこの世を去った徳山璉の「塹壕の中で」。続いて昭和19年に戦病死との公報が届いた上原敏の「峠しぐれ」。これは先ごろ番組の企画・構成者の木村孝雄が自費製作したLP「愛ほしの青春歌」に収録されているもの。

その他、今は亡き歌手のヒット曲を偲ぶ。

9月3日

①リクエスト特集 # 304

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

9月10日

①リクエスト特集 # 305

②妻城光男

③「マドロスの唄」(岡晴夫)、「青い花」(高峰三枝子)、「チンライ節」(樋口静雄)、「霧の波止場」(上原敏)、「ダンジョンブンガの花」

④ 先週に続いてリクエスト特集その2。

一曲目は昭和24年発売の「マドロスの唄」、歌は岡晴夫。続いて昭和21年に高峰三枝子が歌った「青い花」。そして昭和13年8月に発売された樋口静雄の「チンライ節」を送る。

昭和12、3年頃と言えば東海林太郎、上原敏がヒット曲を次々出していた頃だが、その頃の曲から珍曲を一曲。上原敏の「霧の波止場」を聞いた後、当時上原敏と常に行動を共にしていた妻城光男に思い出を聞く。そして最後に妻城の作曲で司会の森一也の編曲による「ダンジョンブンガの花」を送る。

9月17日

① # 306

②

③

④

9月24日

① # 307

②

③「高原の旅愁」(伊藤久男)、「人生の並木路」(ディック・ミネ)、「白百合」(東京音楽学校女声合唱団)、「利根の舟唄」「里恋峠」「妻恋道中」

④ 先週に続いて聴取者から寄せられたリクエスト曲の数々を送る。

一曲目は昭和15年に発売された伊藤久男の「高原の旅愁」。そして昭和12年の日活映画「検事とその妹」の主題歌「人生の並木路」をディック・ミネの歌で聞く。

三曲目が今夜の珍曲、昭和14年5月に発売された「白百合」。これはラジオ歌謡で、東京音楽学校の女声合唱団のコーラスで演奏が東京音楽学校のオーケストラ。このオーケストラのチェリストとして解説の森一也が演奏している。

10月1日

①秋のなつメロ特集 # 308

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

10月8日

①秋のなつメロ特集 #309

②

③「お駒恋姿」(東海林太郎)、「流沙の護り」(上原敏)、「月月火水木金金」、「おとめ白雲」(菊池章子)、「勘太郎月夜唄」、「南の花嫁さん」(高峰三枝子)

④ 先週に続いて、秋のなつメロ特集その2を送る。

一曲目は、昭和10年10月に発売された東海林太郎の「お駒恋姿」。続いて上原敏の「流沙の護り」は、昭和12年の秋に戦場で歌われた曲である。

陸軍の歌に代わって海軍の歌から一曲、昭和15年11月発売の「月月火水木金金」。そして昭和17年9月新譜の「おとめ白雲」は、まだ少女歌手の雰囲気が残っていた菊池章子が歌う。

そして秋にふさわしく「勘太郎月夜唄」を聞いた後、最後に高峰三枝子の「南の花嫁さん」を。

10月15日

①戦時歌謡と軍歌 #310

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

10月22日

①戦時歌謡と軍歌 #311

②

③「〇〇ぶし」、「花嫁部隊の唄」(能勢妙子・藤原亮子・豊島珠江)、「太平洋行進曲」「怒涛万里」
「大東亜戦争歌謡史」「昭南島よコンニチワ」「勝利の日まで」

④ 今夜は先週に続いて「戦時歌謡と軍歌」その2を送る。

一曲目は昭和13年3月に発売された「〇〇ぶし」。この年には労農派グループの検挙があつたりして、町の中にはスパイという言葉が氾濫し、そういう社会情勢からこの曲が生まれたということである。

続いて昭和14年1月発売の「花嫁部隊の唄」。歌うは能勢妙子・藤原亮子・豊島珠江。

そして「太平洋行進曲」「怒涛万里」を聞いた後、昭和18年1月に発売された「大東亜戦争歌謡史」を聞く。これには和田信賢のナレーションが入っている。

10月29日

① #312

②

③

④

11月5日

① #313

②

③「青い牧場」、「どうちゃね元気かね」(楠木繁夫)、「守備隊月夜」「無情の花」

④ 先週に続いて映画主題歌を聴取者からのリクエストで送る。

一曲目はサトウハチロー作詞、古賀政男作曲の「青空交響楽」の主題歌「青い牧場」。これは昭和18年1月に発売されたものだが、当時の検閲をごまかすためにサトウハチローが色々考えて作詞したもので、聞き方によっては相当なものに聞こえる。

続いて楠木繁夫の「どうちゃね元気かね」。そして昭和18年8月発売の「守備隊月夜」。これは「誓いの合唱」の挿入歌。この後「無情の花」を送る。

11月12日

- ① #314
- ② 酒井清、那須芳子
- ③
- ④ 出演者は、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

11月19日

- ① #315
- ② 酒井清、那須芳子
- ③ 「お山の杉の子」、「人生の並木路」(ディック・ミネ)、「旅姿三人男」(ディック・ミネ)、「兵隊さんよありがとう」
「熱砂の誓い」
- ④ 先週に続いて戦時中の童謡歌手として活躍した酒井清と、酒井の妹でやはり子どもの頃合唱団の一員としてレコードの吹き込みをした那須芳子兄妹をスタジオに迎え、当時の思い出などを聞きながら番組を進める。
一曲目は2人の先生の佐々木すぐるの作曲による「お山の杉の子」を聞く。その後酒井が当時好きだった歌手ディック・ミネの「人生の並木路」「旅姿三人男」の他、「兵隊さんよありがとう」「熱砂の誓い」などを。

11月26日

- ① 東海林太郎特集 #316
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

12月3日

- ① 東海林太郎特集 #317
- ② 酒井清、那須芳子
- ③ 「春の悲歌」「スパニッシュ・セレナーデ」「上海の街角で」「恋慕しぐれ」「吹雪の国境」「母に捧ぐる歌」
「或る少尉の遺書」
- ④ 今夜は先週に続いて東海林太郎特集その2を送る。
一曲目は、昭和12年5月にポリドールから発売された「春の悲歌」。この曲は発売当時はあまりヒットしなかったが、本当の東海林ファンには珍重されている曲である。続いては珍品中の珍品、東海林太郎のフランス歌曲「スパニッシュ・セレナーデ」を聞く。
そして「上海の街角で」と「恋慕しぐれ」「吹雪の国境」「母に捧ぐる歌」を聞いて、最後に東海林太郎の生前最後の吹き込みとなった「或る少尉の遺書」を送る。

12月10日

- ① 田端義夫特集 #318
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

昭和49年～50年

12月17日

① 田端義夫特集 #319

②

③ 「船唄人生」「国境千里」「梅と兵隊」「上海の夜」「出船串本」「かえり船」「かよい船」

④ 先週に続いて田端義夫特集その2を送る。

一曲目は昭和15年7月に発売された「船唄人生」。続いては同じ年の11月、紀元二千六百年の記念で国中が沸いていた頃に発売された「国境千里」。これはなつメロコレクターの間では幻のレコードと言われているもので、今夜一番の聞きもの。

三曲目は「梅と兵隊」。そして佐野周二のセリフ入りの「上海の夜」を聞いた後、「出船串本」「かえり船」「かよい船」と続く。

12月24日

① #320

②

③

④

12月31日

① #321

②

③

④

昭和50年1月7日

① #322

②

③

④

1月14日

① #323

②

③

④

1月21日

① #324

②

③

④

1月28日

① #325

②

③

④

2月4日

- ① # 326
- ②
- ③
- ④

2月11日

- ① # 327
- ②
- ③
- ④

2月18日

- ① # 328
- ② 南一郎
- ③ 「弥次喜多大陸道中」、「銀座娘」(ディック・ミネ・服部富子)、「僚機よさらば」(灰田勝彦)、「僕の青春」(藤山一郎)、「山の入陽」(東海林太郎)
- ④ 先週に続いて珍品名品のSPレコードを集めて送る。
一曲目は「弥次喜多大陸道中」。これは戦争中に兵隊の慰問用に作られた映画の主題曲。次いで昭和15年4月発売のディック・ミネ、服部富子のコンビの「銀座娘」。そして灰田勝彦の「僚機よさらば」。藤山一郎の「僕の青春」。最後に昭和10年10月新譜の東海林太郎の「山の入陽」。
ゲストにはレコード・コレクターの南一郎。

2月25日

- ① # 329
- ②
- ③
- ④

3月4日

- ① 古川ロッパ特集 # 330
- ② 南一郎
- ③ 「ネクタイ屋の娘」「声帯模写」「うそくらべ」主題歌「宵闇迫れば」「潜水艦の台所
- ④ 今夜は古川ロッパ特集。
一曲目は昭和15年に発売された、コロムビア専属第一作の「ネクタイ屋の娘」。続いて昭和5年ポリドール盤の「声帯模写」。これは山野一郎との共演だが、藤原義江や二村定一などの声が聞かれる。
次に、ある新聞の囲み欄に載っていた「うそくらべ」を映画化した時の主題歌を聞く。続いて戦前の夜店風景を歌った「宵闇迫れば」。そして最後にマンガ映画「フクちゃんと潜水艦」の主題歌「潜水艦の台所」を聞く。

3月11日

- ① # 331
- ②
- ③
- ④

昭和50年

3月18日

①上原敏、東海林太郎幻の歌謡傑作集 #332

②押谷誠之助

③「渡世がるた」(上原敏)、「別れ涙を」(上原敏)、「陣中ぶし」(上原敏)、「沓掛子守唄」(東海林太郎)、「泣くな門出に」(東海林太郎)、「虹よ消ゆるな」(東海林太郎)

④ 今夜は「上原敏、東海林太郎幻の歌謡傑作集」と題して、今まであまり聞かれなかったSPレコードを集めて送る。

上原敏のものとしては「渡世がるた」「別れ涙を」「陣中ぶし」の三曲。東海林太郎は「沓掛子守唄」「泣くな門出に」「虹よ消ゆるな」をそれぞれ三曲ずつ聞く。

ゲストとして、先週に続いてSP盤収集家の押谷誠之助を招いて、それぞれの曲の思い出とともに裏話を交えて聞く。

3月25日

① #333

②

③

④

4月1日

①童謡・唱歌特集 #335

②

③「青葉茂れる桜井の」「てるてる坊主」「僕は軍人」「水師営の会見」「花かげ」「勝ち抜く僕等小国民」「兵隊ごっこ」

④ 第335夜の今夜は、童謡・唱歌特集ということで、誰もが歌ったことのある、あるいは聞いたことのあるメロディーを送る。

一曲目は「青葉茂れる桜井の」。これは元は「湊川」というタイトルであったが、一番の歌詞の最初がいつの間にかタイトルになったもの。

続いて「てるてる坊主」。この曲のピアノ伴奏は中山晋平。

そして戦争を経験した人は誰もが知っている「僕は軍人」。

4月8日

① #336

②

③

④

4月15日

① #337

②

③

④

4月22日

① #338

②

③

④

4月29日

- ① # 339
- ②
- ③
- ④

5月6日

- ① # 340
- ②
- ③
- ④

5月13日

- ① # 341
- ②
- ③
- ④

5月20日

- ① # 342
- ② 如月敏夫、篠崎俊夫
- ③
- ④ 出演者は、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

5月27日

- ① # 343
- ② 如月敏夫、篠崎俊夫
- ③ 「牧場の丘」「廃墟にたちて」「ジャングルと兵隊」「国境の町」
- ④ 先週に続いて、戦前戦中にポリドールの歌手として活躍した如月敏夫と、如月を師とも仰ぐ、なつかしの流行歌研究保存会の篠崎俊夫をスタジオに迎え、如月の曲を聞きながら思い出を語る。
一曲目は国内でよりむしろ戦地で多くの人が聞いたという「牧場の丘」。そして昭和16年12月にポリドールから発売された「廃墟にたちて」「ジャングルと兵隊」を聞き、「国境の町」で終わる。
希望者10人には如月敏夫のサイン色紙を贈る。

6月3日

- ① 万城目正特集 # 344
- ②
- ③ 「旅の夜風」「おもかげの歌」「純情の丘」「乙女七人」
- ④ 今夜は、万城目正特集その1・戦中編を送る。
映画主題歌をはじめ数多くのヒット曲を作った万城目は明治38年北海道で生まれ、武蔵野音楽学校から浅草六区でのピアノ弾きを経て松竹蒲田に入社、映画主題歌を作るようになる。最初の大ヒットが昭和13年の松竹映画「愛染かつら」の主題曲「旅の夜風」であった。
その他新興作品「侠艶録」の主題歌「おもかげの歌」、「女性問答」の主題歌「純情の丘」「乙女七人」などを送る。

昭和50年

6月10日

- ①万城目正特集 # 345
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

6月17日

- ①伊藤久男特集 # 346
- ②
- ③「黒馬よ急ぐな」「お島千太郎旅唄」「暁に祈る」「高原の旅愁」「父よあなたは強かった」「海の進軍」「海底万里」「熱砂の誓い」
- ④ 伊藤久男特集その1を送る。
今夜は若き日の伊藤久男の声を集めて聞くが、一曲目は昭和11年3月のコロムビア新譜「黒馬よ急ぐな」。このレコードは伊藤ファンで大変珍重されているもの。
続いて昭和15年にヒットした東宝映画「蛇姫様」の挿入歌、「お島千太郎旅唄」を二葉あき子とともに歌う。そして彼の男性的な声を十分に生かして大ヒットした「暁に祈る」。

6月24日

- ①伊藤久男特集 # 347
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

7月1日

- ①大村能章特集 # 348
- ②
- ③「旅笠道中」(東海林太郎)、「お伝地獄の唄」「お駒恋姿」「明治一代女の唄」「満州想えば」「お夏清十郎」
- ④ 今夜は大村能章特集その1。
日本調の曲に数々の名作を残している大村能章の最初のヒット曲は、昭和10年4月にポリドールから発売された右太プロ作品”東海の顔役”の主題歌「旅笠道中」。歌うのは東海林太郎。
続いて同年7月には新興プロ作品”お伝地獄の唄”が出ている。
この2曲の後、大村能章戦前の大ヒット「野崎小唄」のB面にカップリングされている「お駒恋姿」を聞く。

7月8日

- ①大村能章特集 # 349
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

7月15日

- ① # 350
- ②
- ③「青いクローバー」(霧島昇)、「東京ラブソディ」(藤山一郎)、「馬と兵隊」(楠木繁夫)、「林檎の樹の下で」「恋の丸木舟」
- ④ 聴取者からのリクエストを中心に送る。リクエスト曲は霧島昇の「青いクローバー」、藤山一郎の「東京ラブソディ」、楠木繁夫の「馬と兵隊」など。
去る6月25日死去した作詞家の門田ゆたかを偲んで、以前この番組に出演した時のテープから生前の門田ゆたかの声と、門田の作詞による「林檎の樹の下で」と「恋の丸木舟」を聞いて門田ゆたかの冥福を祈る。

7月22日

- ① #351
- ②
- ③
- ④

7月29日

- ① 軍歌特集 #352

- ②
- ③ 「野毛の山から」「維新マーチ」「宮さん宮さん」「抜刀隊」「雪の進軍」「陸奥の吹雪」、
「軍艦行進曲」(東海林太郎)、「愛国行進曲」「月下の陣」「橘中佐」、「ハワイ海戦」(酒井弘)、
『新旧軍歌愛国歌曲集』陸軍編
- ④ 終戦の月も近づいて、今夜と来週は「軍歌」特集を送る。
第一夜の今夜は流行歌としては最も古い軍歌ともいえる「野毛の山から」「維新マーチ」「宮さん宮さん」をメドレーで。
続いて「抜刀隊」「雪の進軍」「陸奥の吹雪」を聞いた後、昭和12年発売の東海林太郎が歌う「軍艦行進曲」を送る。
その他「愛国行進曲」「月下の陣」と「橘中佐」、それに帝国海軍軍楽隊の演奏、酒井弘の歌で「ハワイ海戦」、そして最後に日蓄管弦楽団の演奏による「新旧軍歌愛国歌曲集」陸軍編を聞く。

8月5日

- ① 軍歌特集 #353

- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月12日

- ① #354

- ②
- ③ 「夕日は落ちて」(松平晃)、「瞼の里唄」(東海林太郎)、「妻恋道中」(上原敏)、「美ち奴傑作集」(美ち奴)
- ④ 今夜は聴取者からのリクエスト特集を送る。
一曲目は昭和10年9月コロムビアの発売で松平晃の「夕日は落ちて」、続いて昭和15年3月発売の東海林太郎の「瞼の里唄」、そして上原敏の「妻恋道中」と続く。
今夜の最大の聞きものは、昭和18年の美ち奴傑作集、これは泉詩郎の解説で「吉良の仁吉」「おけさ娘」「次郎長ぶし」を聞く。

8月19日

- ① #355

- ②
- ③
- ④

8月26日

①北廉太郎特集 # 356

②

③「伊豆の故郷」「進軍の一夜」「夢のゆりかご」「男の行く道」

④ 若くして死去した北廉太郎特集その1。

一曲目は昭和13年11月新譜でポリドールのデビュー盤「伊豆の故郷」。続いて同年12月発売の「進軍の一夜」を聞く。その他倉若晴生とのコンビでヒットした「夢のゆりかご」「男の行く道」など。特に「男の行く道」は珍品中の珍品で、今夜の聞きものの1つ。

「なつメロ情報」は、第9回なつメロ愛好会全国大会について。

9月2日

①北廉太郎特集 # 357

②

③

④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

9月9日

① # 358

②

③「慈悲心鳥」(楠木繁夫)、「満州吹雪」(音丸)、「俺は船乗り」(上原敏)、「水師営の会見」(旧戸山学校OB)、「歩くうた」(徳山璉・日本ビクター合唱団)

④ 今夜は聴取者からのリクエスト曲を送る。

一曲目は昭和11年にテイチクから発売された日活映画「慈悲心鳥」の主題歌「慈悲心鳥」を楠木繁夫で聞く。続いて同年11月コロムビアから発売の音丸が歌う「満州吹雪」、そして昭和14年2月ポリドール新譜の上原敏の「俺は船乗り」。

その他、旧戸山学校OBの「水師営の会見」。それに徳山璉と日本ビクター合唱団の歌で「歩くうた」などを送る。

9月16日

① # 359

②

③

④

9月23日

①京都の唄特集 # 360

②

③「鴨川小唄」「伏見小唄」「月形半平太の唄」「お柳恋しや」「鳥辺山心中」

④ 今週と来週の2回にわたって京都の唄特集を送る。

第1回の今夜は昭和4、5年ごろに作られた「鴨川小唄」「伏見小唄」といった今まであまり聞けなかったもの。「鴨川小唄」は地元先斗町のきれいどころ。「伏見小唄」は伏見玉子、小奴、小金といった地元の芸妓。その他「月形半平太の唄」「お柳恋しや」「鳥辺山心中」など京都にゆかりのある曲を集めて送る。

9月30日

① 京都の歌特集 #361

②

③ 「若き京都」(高橋文夫)、「京むすめ」(月村光子)、「思い出の都」「軍国舞扇」「恋慕しぐれ」

④ 先週に続いて京都の歌特集その2を送る。

「旅の夜風」をイントロに一曲目は昭和13、14年にタイヘイから発売された高橋文夫の唄で「若き京都」を聞く。そしてその裏面の月村光子が唄う「京むすめ」が二曲目。このレコードはサンプル盤のため、作詩作曲者が不明という珍品である。もしご存知の方があれば係まで連絡してほしい。

なお、前週のサブタイトルと「歌」の字が異なるのは、京都新聞ラジオ欄の記載に基づいているため。

10月7日

① #362

②

③

④

10月14日

① #363

②

③

④

10月21日

① 思い出のタンゴ集 #364

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

10月28日

① 思い出のタンゴ集 #365

②

③ 「酒は涙か溜息か」(パリ・ムーランルージュ楽団)、「夜のタンゴ」(バルナバス・フォン・ゲッツィ楽団)

④ 昭和43年から7年間続いたこの番組も今夜をもってしばらく休む。

今夜は「思い出のタンゴ集」その2でパリ・ムーランルージュ楽団の演奏で「酒は涙か溜息か」、それにバルナバス・フォン・ゲッツィ楽団の「夜のタンゴ」その他を送る。

係では番組再開の時の資料にするため、聴取者からのリクエストと意見を募集している。近畿放送「この歌あの人」の係まで。

昭和51年

昭和51年2月3日

- ① # 366
- ②
- ③
- ④

2月10日

- ① # 367
- ②
- ③
- ④

2月17日

- ① # 368
- ②
- ③
- ④

2月24日

- ①藤原義江特集 # 369

- ②
- ③「女心の唄」「荒城の月」「アイ・アイ・アイ」「からたちの花」「波浮の港」「沖のかもめ」
- ④ かつて「我らのテナー」の名で親しまれ一世を風靡した藤原義江特集その1を送る。

曲目は「女心の唄」。この曲は藤原義江が18歳の時、東京少女歌劇団のテストで歌って合格したものと言われている。

続いて「荒城の月」「アイ・アイ・アイ」と聞いた後、コロムビア時代の藤原が作曲者・山田耕筰自身のピアノ伴奏で歌っている珍品レコード「からたちの花」を聞く。

なお、藤原はこの年の3月22日に亡くなっているが、前年の10月12日に救急車で病院に運ばれ、亡くなる一か月前にはのどの切開手術をして声を失っていたという(昭和51年3月22日付朝日新聞東京版夕刊)。電話出演も不可能であったと思われる。

3月2日

- ①藤原義江特集 # 370

- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

3月9日

- ①田端義夫特集 # 371

- ②
- ③「島の船唄」「男召されて」「里恋峠」「大利根月夜」「街道投げ節」「兄妹」
- ④ 田端義夫特集その1。

大正8年元日生まれというバタヤんこと田端義夫がレコード界にデビューしたのが昭和14年6月発売の「島の船唄」で、当時21歳であった。そしてこの時が清水みのる、倉若晴生との「船もの」トリオのスタートでもあった。

この曲に続いて「男召されて」「里恋峠」を聞いた後、同じく昭和14年11月発売の大ヒット曲「大利根月夜」を聞く。この他、「街道投げ節」、青葉笙子とのデュエットの「兄妹」等を送る。

3月16日

①田端義夫特集 #372

②

③「初旅ごよみ」「別れ船」「船唄人生」「黒龍江の船唄」「梅と兵隊」「岬のひととき」「かえり船」

④ 先週に続いて田端義夫特集のその2。

今夜は昭和15年、16年に発売されたレコードを中心に、一曲目は15年5月の「初旅ごよみ」、そして次に6月に発売され船シリーズの大ヒットの1つになった清水みのる作詞、倉若晴生作曲の「別れ船」を聞く。

その他「船唄人生」「黒龍江の船唄」「梅と兵隊」「岬のひととき」を聞いた後、戦後テイチクに移籍しての初吹込みの「かえり船」で田端義夫特集を締めくくる。

3月23日

①リクエスト特集 #373

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

3月30日

①リクエスト特集 #374

②

③「赤城しぐれ」(霧島昇)、「ハイキングの歌」(青山薫)、「白蘭の歌」(伊藤久男・二葉あき子)、「街角の喫茶店で」(岡晴夫)

④ 先週に続いてリクエスト特集その2。

一曲目は昭和12年1月発売の霧島昇の「赤城しぐれ」、そして昭和10年に一般から募集して作られた曲「ハイキングの歌」、これは青山薫の歌で聞く。

その後、伊藤久男・二葉あき子の「白蘭の歌」、岡晴夫の「街角の喫茶店で」を聞く。

この番組に対する意見やリクエストは、〒604 京都市中京区区内、近畿放送「この歌あの人」の係まで。

4月2日

①一人二役特集特集 #375

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

4月13日

①一人二役特集特集 #376

②

③「オシャカサン」(藤山一郎)、「港の恋唄」(小沢秀夫)、「吹雪の国境」(東海林太郎)、「マロニエの木陰」「淡海ぶし」

④ 今夜は前回に続いて「一人二役特集」その2。

今夜の一曲目は、藤山一郎が自ら作曲し歌っている曲「オシャカサン」。これは昭和9年ビクターから発売されたものだが、作曲者名は本名の増永丈夫という名で発売されている。続いて編曲者の小沢秀夫が歌っている「港の恋唄」を聞く。

そしてこの番組の解説をしている森一也が作曲した「吹雪の国境」を東海林太郎の作詞、歌で聞く。

昭和51年

4月20日

- ① #377
- ②
- ③
- ④

4月27日

- ① #378
- ②
- ③
- ④

5月4日

- ① #379
- ②
- ③
- ④

5月11日

- ① #380
- ②
- ③
- ④

5月18日

- ①昭和10年代コロムビア名曲選 #381
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

5月25日

- ①昭和10年代コロムビア名曲選 #382
- ②
- ③「村雨小唄」(松平晃)、「興安おろし」(音丸)、「夜霧朝霧」(豆千代)、「喫茶店哀話」(豆千代)、「落葉ざんげ」
「みなと夕焼け」
- ④ 先週に続いて、昭和10年代コロムビア名曲選その2を送る。
一曲目は、昭和10年8月新譜「村雨小唄」。これは江口夜詩と竹岡信幸の2人が共同作曲したという珍しい曲。歌は松平晃。続いて同じ年の12月に発売された音丸の「興安おろし」。
そして11年に入って豆千代の「夜霧朝霧」。12年5月発売の同じ豆千代の「喫茶店哀話」を聞く。これは、西城八十が柳水巴というペンネームで作曲したもの。

6月1日

- ①ポリドールなつかしの歌謡名曲選 #383
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

6月8日

①ポリドールなつかしの歌謡名曲選 #384

②

③「長崎行進曲」(東海林太郎)、「いろは仁義」(宗近明)、「春の感傷」(三村博)、「王様の馬」(奥田良三)

④ 先週に続いて「ポリドールなつかしの歌謡名曲選」その2。

一曲目は、昭和10年3月発売の「長崎行進曲」。歌は東海林太郎。続いて松竹下加茂作品「蹴手繰音頭」主題歌の「いろは仁義」を宗近明の歌で。そして昭和12年3月発売の三村博歌の「春の感傷」。昭和9年1月発売の奥田良三歌の「王様の馬」と続く。

その他秋田県大館市にこのほど作られた上原敏の顕彰碑の除幕式の模様の取材テープなども紹介する。

6月15日

①テイチクなつかしの名作選 #385

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

6月22日

①テイチクなつかしの名作選 #386

②

③「緑の地平線」(楠木繁夫)、「人生劇場」(楠木繁夫)、「ハルビン幻想曲」

④ 先週に続いて「テイチクなつかしの名作選」その2を送る。

まず「緑の地平線」と「人生劇場」の2曲を楠木繁夫の歌で聞いた後、先週A面をかけて好評だった楽団南十字星の演奏による「ハルビン幻想曲」のB面を聞く。その前に当時のバンドマスターであり、編曲を担当していた岩田喜代造に楽団の思い出、当時の様子などを電話で聞く。岩田の話と「ハルビン幻想曲」は今夜の最高の聞きもの。

6月29日

① #387

②

③

④

7月6日

① #388

②

③

④

7月13日

① #389

②

③

④

昭和51年

7月20日

- ① # 390
- ②
- ③
- ④

7月27日

- ①リクエスト特集 # 391
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌々週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月3日

- ①リクエスト特集 # 392
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月10日

- ①リクエスト特集 # 393
- ②
- ③「虹の都」(小畑実)、「南京の花売娘」(岡晴夫)、「妻恋旅姿」(上原敏)、「支那の夜」(渡辺はま子)、「純情月夜」(結城道子)、「上州鴉」(瀬川伸)、「野いばら」(関屋敏子)
- ④ リクエスト特集その3。
一曲目は、昭和21年11月にテイチクから発売された小畑実の「虹の都」。続いて昭和15年4月の岡晴夫の歌で「南京の花売娘」。同年9月発売の松竹映画「弥次喜多怪談道中」から上原敏の「妻恋旅姿」を聞く。
渡辺はま子の「支那の夜」は佐野周二のセリフ入り。

8月17日

- ① # 394
- ②
- ③
- ④

8月24日

- ① # 395
- ②
- ③
- ④

8月31日

- ①日本で親しまれた外国のポピュラー・ソング特集 # 396
- ②
- ③「赤い翼」「月光価千金」「巴里の屋根の下」
- ④ 「日本で親しまれた外国のポピュラー・ソング特集」その1。

外国製の曲でありながら、あまりにも親しまれているため日本で作曲されたものと思われている曲もある。たとえば、昭和8年3月発売の「平和節」別名「パイノパイノパイ」。これは、原名为「マーチング・スルー・ジョージア」と言い、明治25年に日本に輸入されたもの。

今日はこういった外国のポピュラー・ソングを集めて送る。

9月7日

- ①日本で親しまれた外国のポピュラー・ソング特集 # 397
- ②
- ③「谷間の灯ともし頃」「山の人気者」「ディガ・ディガ・ドウ」「南へ南へ」「アイルランドの娘」「最後の乱舞」
「チーク・ツウ・チーク」
- ④ 「日本で親しまれた外国のポピュラー特集」その2。

一曲目「谷間の灯ともし頃」、二曲目「山の人気者」と続いた後、昭和9年発売のコロムビア、ラッキー盤で、ミルス・ブラザーズとデューク・エリントン楽団の「ディガ・ディガ・ドウ」を聞く。

その他「南へ南へ」「アイルランドの娘」「最後の乱舞」と聞かすが、最後にエディー・デューチン・オーケストラの珍品「チーク・ツウ・チーク」を聞く。

9月14日

- ①リクエスト特集 # 398
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

9月21日

- ①リクエスト特集 # 399
- ②
- ③「アデュー・モン・パリ」「街道投げ節」、「牡蠣の殻」(東海林太郎)、「秋の女」(上原敏)
- ④ 今夜は先週に続いて「リクエスト特集」その2。

曲目は、「アデュー・モン・パリ」「街道投げ節」の他、東海林太郎の「牡蠣の殻」、上原敏の「秋の女」などを送る。

先週に続いて今夜も400回記念として聴取者プレゼントのお知らせがある。プレゼントⅠは東海林太郎のカセットテープ、Ⅱは上原敏のLPアルバム、Ⅲはなつメロ誌78、をそれぞれプレゼントする。詳しくは番組で放送。

9月28日

- ①リクエスト特集 # 400
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌々週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

昭和51年

10月5日

①リクエスト特集 #401

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

10月12日

①リクエスト特集 #402

②

③「崑崙越えて」(藤山一郎)、「ふるさと通信」(霧島昇)、「街の花売娘」(松平晃)、「母のたより」「パラオ恋しや」
「沓掛街道」「どぶろくの辰」

④ 聴取者のリクエスト特集その5。

一曲目は、昭和16年コロムビア新譜の藤山一郎歌「崑崙越えて」。続いて霧島昇の「ふるさと通信」、そして松平晃の「街の花売娘」。これは、西城八十が大陸へ日本軍慰問に行った時の印象を作詩したもので、この曲がヒントで岡晴夫の花売娘シリーズが生まれた。

10月19日

① #403

②

③

④

10月26日

① #404

②

③

④

11月2日

①東海林太郎歌謡名作選 #405

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

11月9日

①東海林太郎歌謡名作選 #406

②

③「君はそよ風」「わが涙」「人生航海」「上海の街角で」「純情一路」「大陸の歌声」「青春夜曲」

④ 先週に続いて「東海林太郎歌謡名作選」その2を送る。

今夜は昭和9年から15年にかけて発売されたものの中から選んで送る。

一曲目は昭和9年3月発売のタンゴ「君はそよ風」。そしてこれも幻の名盤と言われる同年9月発売の「わが涙」。これは阿部武雄の作曲だが、阿部・東海林コンビの第一回作品である。

続いて「人生航海」「上海の街角で」と13年作品2曲を聞く。そして最近復刻された「純情一路」「大陸の歌声」と14年の作品の後、昭和15年3月発売の「青春夜曲」などを送る。

11月16日

- ① #407
- ②
- ③
- ④

11月23日

- ① #408
- ②
- ③
- ④

11月30日

- ① #409
- ②
- ③
- ④

12月7日

- ① #410
- ②
- ③
- ④

12月14日

- ① #411
- ②
- ③
- ④

12月21日

- ① #412
- ②

- ③ 「白いハンカチ」(内本実)、「白いハンカチ」(原曲)、「谷間の灯ともし頃」(東海林太郎)、「おおドンナ・クララ」(藤山一郎・ヘレン隅田)、「たそがれ」(藤原義江)、「メキシコの乙女」(斎田愛子)、「アレクサンダー・ラグタイム・バンド」(岸井明・加美可那子)

- ④ 今夜は、先週に続いて日本の歌手が歌うポピュラー曲を集めて送る。

一曲目は昭和12年のコロムビア盤で内本実が歌うタンゴ「白いハンカチ」。続いてこの原曲を45年前に吹き込まれたレコードで聞く。

三曲目は東海林太郎の歌で「谷間の灯ともし頃」。そして藤山一郎とヘレン隅田のデュエットで「おおドンナ・クララ」。

その他、珍しい曲の数々で綴る。

12月28日

- ① #413
- ②
- ③
- ④

昭和52年1月4日

- ① #414
- ②
- ③
- ④

1月11日

- ① #415
- ②
- ③ 「テイチク歌の花束」(楠木繁夫、美ち奴、ディック・ミネ、藤山一郎、奥田英子、杉狂児、星玲子)、
「魚河岸」(あきれたぼういず)、「朗らかな演芸会」
- ④ 今夜は先週に続いてなつメロオールスター総出演というレコードの数々を送る。
一曲目は昭和11年12月発売の「テイチク歌の花束」。このレコードの始めには珍しく古賀政男が挨拶をしている。出てくる歌手は、楠木繁夫、美ち奴、ディック・ミネ、藤山一郎、奥田英子、杉狂児、星玲子。
続いて紹介するのは、あきれたぼういずの「魚河岸」。そして昭和10年のビクター盤、唄のレビュー「朗らかな演芸会」など新春にふさわしいレコードを聞く。

1月18日

- ① #416
- ②
- ③
- ④

1月25日

- ① #417
- ②
- ③
- ④

2月1日

- ① 人生流転 #418
- ②
- ③ 「人生劇場」、「曠野を行く」(松平晃・豆千代)、「涙の渡り鳥」(小林千代子)、
「さすらいの恋唄」(東海林太郎)、「人生の並木路」「流転」
- ④ 「人生劇場」で始まる今夜のこの時間は”人生流転”をテーマに、人生の浮沈を歌った曲を集めて送る。
一曲目は昭和9年10月に発売された松平晃と豆千代が歌う「曠野を行く」。そして昭和7年この曲で一躍スターになった小林千代子の「涙の渡り鳥」、これは佐川ミツオのリバイバルでも大ヒットした。
三曲目は今夜の聞きもので、昭和10年12月に発売された東海林太郎の「さすらいの恋唄」。

2月8日

- ① # 419
- ②
- ③
- ④

2月15日

- ① # 420
- ②
- ③
- ④

2月22日

- ① # 421
- ②
- ③
- ④

3月1日

- ① 岡晴夫特集 # 422

②

③ 「国境の春」「上海の花売娘」「港シャンソン」「ニュー・トーキョー・ソング」

④ 「国境の春」で始まる第422夜の今夜は、待望の「岡晴夫」特集その1。

一曲目は昭和14年5月キングから発売された「上海の花売娘」。この曲で歌手岡晴夫と作曲家上原げんが世間に知られるようになった。そして続いてのヒット曲が同年7月発売の「港シャンソン」。

次に戦時歌謡シリーズとして3曲メドレーで聞いた後、以前この番組に出演した時の岡晴夫の声を織り交ぜて「ニュー・トーキョー・ソング」ほかを聞く。

3月8日

- ① 岡晴夫特集 # 423

②

③

④ サブタイトルは、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

3月15日

- ① # 424
- ②
- ③
- ④

3月22日

- ① # 425
- ②
- ③
- ④

昭和52年

3月29日

- ① # 426
- ②
- ③
- ④

4月5日

- ① # 427
- ②
- ③
- ④

4月12日

- ① # 428
- ②
- ③ 「鴛鴦春姿」(上原敏・青葉笙子)、「花嫁双六」(橋本一郎・喜代丸)、「憎いわね」(山中みゆき)、「木曾路しぐれて」(東海林太郎)
- ④ 今夜はリクエスト曲を送る。

一曲目は昭和15年4月に発売された「鴛鴦春姿」。これは松竹映画「弥次喜多六十四州唄栗毛」の主題歌で、上原敏と青葉笙子のデュエット。次いでこれも映画主題歌「花嫁設計図」から橋本一郎と喜代丸のデュエットの「花嫁双六」。昭和11年3月タイヘイから発売されたもの。

その他昭和12年8月発売の山中みゆきの「憎いわね」、東海林太郎の「木曾路しぐれて」など。

4月19日

- ① # 429
- ②
- ③
- ④

4月26日

- ① # 430
- ②
- ③ 「可愛い瞳」(松平晃)、「乙女の戦士」(高峰三枝子・コロムビア女声合唱団)、「港は雨」(北廉太郎)、「米山三里」(音丸)、「別れの夜船」(岡晴夫)、「港町カスバ」(東海林太郎)
- ④ 今夜は特にまだLP化されていない曲を集めて聴取者の希望に応える。

一曲目が昭和11年10月コロムビアから発売された松平晃の「可愛い瞳」、続いて高峰三枝子とコロムビア女声合唱団の「乙女の戦士」、ポリドール昭和15年3月発売北廉太郎の「港は雨」、そして昭和11年12月音丸の「米山三里」などの後、珍品の岡晴夫「別れの夜船」、東海林太郎の「港町カスバ」などを送る。

5月3日

- ① # 431
- ②
- ③
- ④

5月10日

- ① #432
- ②
- ③
- ④

5月17日

- ① #433
- ② 伊東茂
- ③ 「涙の責任」(樋口静雄)、「陣中ぶし」、「旅の人形師」(徳山璉)
- ④ 今夜は大のなつメロファンで大阪北新地でお茶屋さんを経営する伊東茂をゲストに迎え、戦前のお茶屋さんの風景や芸者の生活の話などを聞きながら番組を進める。
昭和15年、樋口静雄の「涙の責任」や昭和12年の「陣中ぶし」、そして伊東持参の徳山璉の「旅の人形師」などを聞く。
伊東は昭和5年に発売された「曽根崎夜曲」をこのほど復刻自費出版、なつメロファンに喜ばれている人。

5月24日

- ① #434
- ②
- ③
- ④

5月31日

- ① #435
- ② 塩まさる
- ③ 「軍国子守唄」「戦地から故郷から」「守備兵だより」「僕の父さん」
- ④ 戦時歌謡に多くのヒット曲を出した塩まさるから当時の話を聞く。
塩まさるのヒット曲と言えば何と言っても昭和14年の「九段の母」。塩が歌手として出発した当時の話やそれぞれの歌の思い出、レコーディングの裏話などが出る。

6月7日

- ① #436
- ②
- ③
- ④

6月14日

- ① #437
- ②
- ③
- ④

6月21日

① #438

② 高田浩吉

③ 「半次よびこみの唄」「二代目弥次喜多」「春琴抄」

④ 今夜から3週にわたって、歌う映画スター第一号で、昨年芸能生活50年を迎えた高田浩吉をスタジオに招いて、思い出話とともに数々のヒット曲を聞いていく。

今夜は映画界に入ったいきさつから始まって、昭和10年のデビュー作「大江戸出世小唄」の吹き込み当時の話、例えば撮影のセット中にオーケストラを入れての同時吹き込みをした苦労話、あるいはレコーディングの時のドイツ人技師のエピソードなど、大変興味ある話が聞ける。

「春琴抄」は田中絹代のセリフ入り。

6月28日

① #439

② 高田浩吉

③

④ 出演者は、前週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

7月5日

① #440

② 高田浩吉

③ 「噂だより風だより」「浩吉三文オペラ」「浩吉三度笠」

④ 歌う映画スター第一号の高田浩吉をスタジオに迎えて、思い出話とともに、珍曲・名曲を聞く。

一曲目は、昭和15年4月発売の「噂だより風だより」。その後高田浩吉自身がアイデアを提供、菊田一夫がそれをまとめて作り上げた「浩吉三文オペラ」と「浩吉三度笠」を聞く。

7月12日

① リクエスト特集 #441

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

7月19日

① リクエスト特集 #442

② 高田浩吉

③ 「妻恋道中」(上原敏)、「小町恋塚」(東海林太郎・夏川静江)、「今日も塹壕で」(豆千代)、「瀬戸の絵模様」(高田浩吉)

④ 先週に続いてリクエスト特集その2。

一曲目は昭和14年3月ポリドールから発売された上原敏の「妻恋道中」。なつメロ番組ではよく聞かれるものだが、やはりリクエストも数多く寄せられるなつメロヒット曲中のヒット曲。その他東海林太郎、夏川静江の「小町恋塚」、豆千代の「今日も塹壕で」などを聞く。

またこの番組では珍しく新しい曲、高田浩吉の「瀬戸の絵模様」が聞かれる。

7月26日

① 一色皓一郎特集 #443

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月2日

- ①一色皓一郎特集 #444
- ②一色皓一郎、水原美也子
- ③「女性本願」(楠木繁夫・水原美也子)、「人生の港」(一色皓一郎)、「街の小鳥」(一色皓一郎・水原美也子)
- ④ 先週に続いて一色皓一郎特集その2。今夜は一色皓一郎本人と、夫人の水原美也子をスタジオに招いて2人の曲を中心に送る。

一曲目は昭和15年6月発売の「女性本願」。これは新興キネマ「女性本願」の主題歌で、水原美也子が楠木繁夫とデュエットしている。その他、一色の「人生の港」などを聞いた後、2人の曲「街の小鳥」など珍盤の数々を送る。

8月9日

- ① #445
- ②
- ③
- ④

8月16日

- ①若原一郎特集 #446
- ②若原一郎
- ③
- ④ サブタイトル及び出演者は、翌週及び翌々週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

8月23日

- ①若原一郎特集 #447
- ②若原一郎
- ③「東京ナイト」「つばくろ笠」「裏町のピエロ」「ハンドル人生」
- ④ 第447夜の今夜は、先週に続いて若原一郎特集その2を送る。
 のど自慢出身の歌手として数々のヒット曲を出し、今なお活躍している息の長い歌手だが、今夜は、昭和30年前後の曲を集めて聞く。
 一曲目は昭和29年10月発売の「東京ナイト」。続いて30年5月の「つばくろ笠」「裏町のピエロ」「ハンドル人生」と聞いていく。
 若原一郎という歌手は、色々なジャンルの歌をこなすという意味では他に類を見ない歌手と言えよう。こうした歌をこなす歌手の内面を、若原一郎と宇井昇の対談の中からうかがえるのも面白い。

8月30日

- ①若原一郎特集 #448
- ②若原一郎
- ③「船に灯がつかや」「風の吹きよで」「仁吉は男」「丘にのぼりて」「おーい中村君」「あれからどうした中村君」
- ④ 若原一郎をゲストに迎えての特集その3。
 デビュー曲の「船に灯がつかや」は昭和25年に発売されたものだが、最初は岡晴夫で発売予定だった。それが一転二転して若原一郎のデビュー曲となったわけだが、その辺の事情が語られる。
 その他「風の吹きよで」「仁吉は男」「丘にのぼりて」、そして大ヒットの「おーい中村君」。
 お別れは若原一郎の新曲「あれからどうした中村君」。

9月6日

① #449

② 若原一郎

③ 「国境の町」(東海林太郎)、「大地の春」、「人生劇場」(東海林太郎)

④ 去る7月19日に82歳で亡くなった詩人の大木惇夫を偲んでの特集。

大木惇夫と言えば、東海林太郎が歌って大ヒットとなった「国境の町」の詩を作った時のエピソードが世に有名になっているが、とにかく大変酒を愛し、酒を飲みながら詩を書くということで、作曲家の中でも酒豪の阿部武雄とのコンビで生まれたのが「国境の町」であった。

今夜はこの他「大地の春」、東海林太郎の「人生劇場」などを送る。

9月13日

① #450

②

③

④

9月20日

① 菅原都々子特集 #451

②

③

④ サブタイトルは、翌々週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

9月27日

① 菅原都々子特集 #452

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

10月4日

① 菅原都々子特集 #453

② 菅原都々子

③ 「夢去りし丘」「悲恋椿」「月がとっても青いから」「北上夜曲」「古い港町」「聞いて下さいお話しします」

④ 菅原都々子特集その3。

最初は昭和27年5月に発売された「夢去りし丘」、28年4月の「悲恋椿」を聞いた後、彼女のヒット曲の一つに数えられている「月がとっても青いから」を送る。昭和30年5月の発売で、今なお人々に口ずさまれている。

その他「北上夜曲」、そして新曲の「古い港町」「聞いて下さいお話しします」。

10月11日

① #454

②

③ 「女の階級」(楠木繁夫)、「坊やは達者」(青葉笙子)、「あゝ揚子江」(塩まさる)、「さすらいの唄」(佐藤千夜子)、「加茂川しぐれ」(上原敏)

④ 今夜は聴取者のリクエスト曲を送る。

一曲目は昭和11年10月発売の「女の階級」。これは楠木繁夫のヒット曲で、リクエストもたくさんある。

続いて青葉笙子の「坊やは達者」、それに塩まさるの「あゝ揚子江」。

その他今話題の佐藤千夜子の曲から「さすらいの唄」。これは昭和9年2月に発売されたもので、「ゴンドラの唄」とカップリングされたもの。

そして最後に珍品中の珍品、上原敏の「加茂川しぐれ」を送る。

10月18日

① #455

②

③「ゴンドラの唄」(佐藤千夜子)、「小鳥売りの歌」(松平晃)、「思い出峠」(結城道子)、「舟乗りの歌」(藤山一郎)、「守備兵ぶし」(小野巡)、「大空に祈る」(松原操)

④ 先週に続いて聴取者からのリクエスト曲を送る。

一曲目は先週聞いた佐藤千夜子の「さすらいの唄」の裏面で発売された「ゴンドラの唄」。これは昭和9年2月に発売されたもので、実はこの番組のテーマ曲として使用している。

続いて松平晃の「小鳥売りの歌」、結城道子の「思い出峠」の後、今夜の聞きものの一つ、藤山一郎の「舟乗りの歌」。

そしてリクエストの多い小野巡の「守備兵ぶし」、松原操の「大空に祈る」など。

10月25日

① #456

②

③

④

11月1日

① #457

②

③

④

11月8日

① #458

②

③

④

11月15日

①小笠原美都子特集 #459

②

③

④ サブタイトルは、翌々週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

11月22日

①小笠原美都子特集 #460

②

③

④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

昭和52年～53年

11月29日

- ①小笠原美都子特集 #461
- ②小笠原美都子
- ③「別れの波止場」「名残りの月影」「小夜ちどり」「舞柴」「十三夜」「日中友好の歌」
- ④ 小笠原美都子特集その3。

今夜は「別れの波止場」をトップに、昭和22年3月に発売の「名残りの月影」、26年4月の「小夜ちどり」などを聞いた後「舞柴」、そして最大のヒット曲「十三夜」をそれぞれの曲にまつわる思い出話とともに聞く。
ついで小笠原美都子の最近のレコード「日中友好の歌」を、彼女の近況とともに紹介する。

12月6日

- ① #462
- ②
- ③
- ④

12月13日

- ① #463
- ②
- ③
- ④

12月20日

- ①なつかしのポピュラー名曲選 #464
- ②
- ③
- ④ サブタイトルは、翌週の放送日の京都新聞ラジオ欄より推測。

12月27日

- ①なつかしのポピュラー名曲選 #465
- ②
- ③「コロラドの月」(ベン・セルビンとそのオーケストラ)、
「セントルイス・ブルース」(ナット・ゴネラと彼のジョージアズ)、「カベシータ」(バルナバス・フォン・ゲッツィ)、
「小雨降る径」(ティノ・ロッシ)、「国境の南」(ジーン・オートリー)、
「アディオス・パンパミーヤ」(ホアン・ダリエソ)
- ④ 先週に続いてなつかしのポピュラー名曲選を聞く。
一曲目はベン・セルビンとそのオーケストラの「コロラドの月」で、続いて昭和13年頃に発売されたナット・ゴネラと彼のジョージアズの「セントルイス・ブルース」が続く。
そして昭和12年に日本に紹介されたバルナバス・フォン・ゲッツィの「カベシータ」、ティノ・ロッシの「小雨降る径」、続いて先週も聞いたジーン・オートリーの「国境の南」、最後にホアン・ダリエソの「アディオス・パンパミーヤ」。

昭和53年1月3日

- ① #466
- ②
- ③
- ④

1月10日

① #467

②

③

④

1月17日

① #468

②

③

④

1月24日

① #469

②

③

④

1月31日

① #470

②

③

④

2月7日

① #471

②

③

④

2月14日

① #472

②

③

④

2月21日

① #473

②

③

④

昭和53年

2月28日

- ① #474
- ②
- ③
- ④

3月7日

- ① #475
- ② 総集編
- ③
- ④

3月14日

- ① #476
- ② 総集編
- ③
- ④

3月21日

- ① #477
- ② 総集編
- ③
- ④

3月28日

- ① #478
- ② 総集編
- ③ 「燃ゆる大空」(藤山一郎・霧島昇他)、「高原の旅愁」(伊藤久男)、「夕日は落ちて」(松平晃・豆千代)、「ブエノスアイレスの歌」(淡谷のり子)
- ④ 昭和43年から10年間続いたこの番組も第478回の今回で本当の最終回。

過去に藤山一郎、伊藤久男、豆千代、淡谷のり子がそれぞれ出演した際の録音をダイジェストで聞く。

この回の放送音源をA氏が当時録音したものが現存しており、これを聞くところによると、番組のオープニングとエンディングに「忠治子守唄」のメロディーが流れ、オープニング時にはメロディーに被せる形で司会の宇井昇が**「歳月は流れ昭和が流れる。喜びがあり悲しみがあり青春がある。そこには人があり思い出があり歌がある。今宵も聞こし召て愛おしのあの青春歌、シンポの「この歌あの人」**という口上を述べている。

曲目は放送順。

また、エンディング時に以下の5種類のプレゼントのお知らせが告知されている。

- ・自費制作による上原敏大全集(200曲入っているLP14枚セット)を1名
- ・自費制作「ポリドール名作選 望郷の唄」(14曲入っているLP)を1名
- ・なつメロの雑誌「SEVEN EIGHT」3月号を20名
- ・この放送の放送テープ2週分を1本にしたカセットテープの希望の放送テープを10名
- ・東海林太郎の生前の声の入ったカセットテープ(10曲歌が入っている)を10名